

令和元年度 施策評価シート

基本目標		「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる
施策の目標	区内に点在する観光拠点・資源の連携により、観光地としての魅力が向上するとともに観光プログラムが充実し、多くの人々がすみだを訪れ、まちがにぎわっています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	観光客による区内観光施設等の平均立寄り地数									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	2.93				3.5					4.0
実績										

指標名	墨田区における来訪者の観光消費額推計									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	4,110				4,500					4,750
実績										

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
平成25年度の事業開始以降、吾妻橋船着場の利用回数は増加している。おしなり公園船着場についても、今年の8月から扇橋閘門が航行可能となるので、今後利用回数の増加が見込まれる。そのため、今後も、施設を適切に維持管理していくとともに、関係部局と観光舟運の活性化に取り組む。	H28	18,920
	H29	20,313
	H30	17,878

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	船着場の利用回数が増加すると、管理経費も増加するため、受益者負担の原則を捉えながら、効率的な維持管理方法を模索する必要がある。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
多くの人々がすみだを訪れ、まちがにぎわうために必要な船着場であるため、船着場利用者が安全・快適に施設を利用できるように適切に維持管理する必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
おしなり公園船着場の夜間開放を継続するとともに、各船着場の利用状況等も踏まえ、施設管理業務の改善を進める。	

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	船着場使用回数(吾妻橋船着場・おしなり公園船着場)				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		10,000	R7	目標	7,000	7,000	7,000	7,000
				実績	4,649	4,276	4,528	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	観光客の導入増加を促進するためには、区外からの来街が期待される吾妻橋船着場・おしなり公園船着場の使用回数を増加させる必要があるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	区内を訪れる観光客数				単位	千人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
10,000		R7	目標	9,800	9,800	9,800	9,800	
			実績	9,176	8,142	8,212		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	9,800	9,800	9,800	9,800	9,800	10,000		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
船着場の利用を促進することで、区内観光回遊性を向上し、楽しいまちを創生することを目的とするため、舟運活性化が観光客の増加の一翼を担うものであるため。(基本計画)								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	船着場の利用を増加させるため、船着場周辺の観光資源の開発や舟運そのものの観光性の充実を促進し、多くの観光客を区内に誘導して、うるおいあるまちづくりを図っていく。

課題・問題点
<p>船着場の利用回数が増加すると、管理経費も増加することになるため、効率的な維持管理方法を模索する必要がある。</p> <p>また、受付業務の一部をシステム化する検討を行ったが、セキュリティ対策費用が多額を要するため、引き続きシステム費用の縮減化を検討していく。</p>